

岡屋をかのやは木幡こはたの西なり。宇治川うちがはのひがしにて民村あり、古の街道筋なり。

夫木 日くれば岡をかの屋やにこそふしみなれ明て渡らん櫃川ひつかはのはし 読人しらず

〔長明方丈記に曰、若跡の白波に身をよする朝には、岡をかの屋に行かふ舟をながめて、満沙弥が風情をぬすみ、もし桂かつらの風ばちをならす夕には、潯陽の江をおもひやりて、源都督のながれをならふ〕